

## 第9回 桑名市就学前施設再編検討委員会会議録

- 1 日 時 平成23年 8月11日(木) 午後3時00分から
  - 2 場 所 桑名市役所 5階中会議室
  - 3 出席委員 学識経験者2名、自治会連合会2名、民生委員児童委員1名  
公立幼稚園2名、公立保育所1名、公立小学校1名  
教育部長、保健福祉部長
  - 4 欠席者 私立幼稚園2名、私立保育所3名
  - 5 出席職員 教育総務課長、学校教育課長、指導課長  
社会福祉事務所長、子ども家庭課長、同主幹  
学校・園再編推進室長、同主査、同指導主事
  - 6 議 事  
(1) 就学前施設の再編について
  - 7 傍聴人 6名
- 
- 

(教育総務課長)

皆様、こんにちは。本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。ございます。

ただいまから、第9回桑名市就学前施設再編検討委員会を開催させていただきます。今回5人の委員の皆さんが都合で欠席ということでございますが、委員会要綱に基づき、委員会の成立には委員の3分の2以上の出席が必要ですが、本日11人の委員さんに出席いただいておりますので、委員会として成立していることをご報告させていただきます。

それでは委員長さんよろしく申し上げます。

(委員長)

みなさんこんにちは。それでは、第9回桑名市就学前施設再編検討委員会を開催したいと思います。

まず、第8回の議事録の確認を行いたいと思います。

前回の第8回委員会につきましては、委員の皆さんもご承知のところでは

ございますが、資料17-2の今後の施設の在り方についての基本的な考え方をお示しした段階で、私学さんから「これを撤回していただかないと、退席させてもらう」とのお話がありました。その後、多少の議論はございましたが、委員長として「撤回ということは基本的には考えていない」とのお話をさせていただいたこともあり、最終的には5人の委員さん方は退席されました。その時点からは、今日は委員会の成立に必要な人数は足りていますが、前回は足りませんでした。退席された時点で委員会は不成立となりましたので、第8回の委員会はその時点で終了いたしております。議事録としてもその時点までということとなります。この点を含みおきいただいて、議事録の方はよろしいでしょうか。議事録について何かご質問、ご意見ございますか。

(再編推進室長)

文字の訂正をお願いします。

最終頁17頁4行目 遡上⇒俎上の訂正をお願いします。

(委員長)

俎上という言葉が訂正いたしまして、私の方で後ほど署名をさせていただきたいと思っております。

資料17-2につきまして、前回基本的な考え方をたたき台として、議論をしていただきたいと、その意味でいうと撤回をするということは基本的には考えていないと私自身の考えをお示したところであり、その考えに今も変わりはありません。その後、結果的には5人の委員の方の退席となったわけではありますが、委員長の立場としては、折角の機会でもございます、桑名っ子をみんなで育てていこうという桑名の就学前の教育の理念について、確認をした仲間でもありますので、16人の委員の委員全員揃って議論をしたいという思いはあります。前回の委員会終了後、事務局を通して退席された委員のご意見をお伺いすべく、代表の方を通じて連絡はとっていただいた訳ではありますが、今のところ、お考えが変わるところはないということから本日欠席ということでございます。現段階では止むを得ないと考えておりますが、今後も引き続き、事務局を通して、欠席をされた委員さん方へのコンタクトはお願いしたいというふうに考えております。

では、本日の協議事項に入っていきたいと思っております。今日の委員会としては、前回第8回委員会にお示しをさせていただきました資料17-2「本委員会における就学前施設再編の基本的な考え方」をたたき台として前回の議論の続き、継続審議をお願いしたいと思っております。

また、基本的な考え方を議論いただくのにあわせて、保護者の声は是非

聴いてみたいと思いますので、その具体的な保護者アンケートをするということと、その内容についても、ご審議いただきたいと思います。

では、協議事項の一つめ、再編の基本的な考え方について、入っていこうと思います。第8回の委員会で資料17-2が出されましたが、各委員の意見もまとめておいてはということで、本日事項書の後ろに各委員の意見をまとめていただきました。これを参考にしながら、もう一度17-2を議論していきたいと思います。事務局から説明をお願いします。

(再編推進室指導主事)

- ・再編の基本的な考え方について（資料17-2）
- ・預かり保育の実施状況
- ・17-2について各委員より提出された意見のまとめ（資料20 本日準備）  
※事務局から説明。

(委員長)

いかがでしょうか。その後皆さんからいただいた、意見をまとめて紹介していただきましたが、ずっと皆さんのご意見を伺っておりまして、「中学校ブロックを基本単位にするということ」と、「子どもの社会性を育むための集団を確保」しなければならないということ、「4歳児実施園を中心に検討すること」「独立園化を図ること」「ブロックによっては、幼保一元化を図ること」の4点については今いる委員の皆さん概ね合意できたものと考えますがいかがでしょうか。また、園の数を「半数程度を目途とすること」や「幼保一元化施設は3園程度を予定とすること」については、何回も申し上げていますが、まず中学校ブロックで、個別に検討していかなければならない。その結果が半数になるのか、もう少し多くなるのか、幼保一元化施設はその結果として、3園なのか、もっと減るのか、もう少し増えるのか、ということを変更して検討していくことになるんだろうと思う。ここでの数字、半数という数字、3園程度という数字はあくまでも仮置きということになります。出来れば、この基本的な考え方に沿って、中学校ブロックぐらいで、検討を具体的に、施設の老朽化の度合い、いろいろ考慮しなければならない要因というのはあります。それらを検討したうえで、最終的に立ちあげたら12になるのか、9になるのか、15になるのか、ということを変更して確認していくことになるのかと思う。特に意見の多かった「分団登園の廃止」「定員の設定」については、再編に伴う課題として残しつつ、今後具体的な再編を詰めながら、個々の課題について今後検討していくということになるかと思っています。

「公私の保護者負担是正に向けて」は、たびたび委員から意見も出されて

おりましたし、今後の検討課題として考えられるが、まずは、諮問事項の一つである公立幼稚園の適正配置を含めた就学前施設の桑名の新しい姿についての議論を進めましょうと、その結果として、公立幼稚園の再編の結果、公私の是正というもの、どの程度のお金が割けるのか、そのようなことを検討しながらやっていくことになるのだと思います。これらの点について、前回以降お出しいただいた、皆様のご意見も含めて、何かご意見ございませんでしょうか。

(委員)

最初の5つの中の4つ目の、独立園化についてですが、既存の園舎を使うのか、新たな新設の園も含めているのかという部分について、分団登園の部分にかかわってきますので、ご意見があったように、A幼稚園が残るのなら、当然地域の子どもは分団登園が出来ます。けれどもそうでない部分についてはしない、すべて今ある既存の園舎を考えているのか、それとも新設を含めて概ね半数程度と考えているのか、その辺りはどうなのか。

(委員長)

いかがですか。今の委員のご質問に対して。これも中学校ブロックあたりで考えていかないと、具体的にはとは思いますが、今の段階で言える話がありますか。

(再編推進室長)

基本的には既存の園舎を活用するというふうに考えております。

(委員長)

基本的には既存の園舎を使うということですね。原則既存の園舎を使って独立園化を図るといふふうに文言を変えることをした方が良いでしょうか、という提案がここにはありますが。一様このような認識ということで。原則既存の園舎を使うということで。

(再編推進室長)

原則既存園舎を使うということで。

(委員長)

よろしいでしょうか。他に意見ございますでしょうか。いかがでしょう。ここの基本的な考え方については、前回かなり議論を呼びましたし、特に上

の箱の部分というのは、かなり前から議論はしていた。原則分団登園の廃止、預かり保育、4、5歳児の定員の設定、この3点については、この公私の保護者負担の是正も含め、下の4点というのが今まであまり議論出来ずにきた。合わせて9つの項目というものを、全体について、この際ご意見ございましたら、お寄せいただきたいと思いますと思うのですが。

(委員)

私ひとつだけ心配な点があったのですが、前回預かり保育の事で議論している時に、幼稚園の預かり保育はいらぬのではないかというような趣旨の意見があったと思います。私は公立幼稚園に携わっていて、人数が減っていく大きな原因が、時間が短いということで、公立幼稚園を考えていくにあたって、預かり保育というのは一番大事な件だと思っています。同じ公立どうして考え方があわない、相対するものを持っているというのは、今後私立さんも含めて検討していくうえで、良くないのではないのかと思い、同じ公立の幼稚園を考えていくうえで預かり保育は必要だという視点で考えていっていただけるとありがたいと思っています。

(委員長)

幼稚園と保育所の役割の違いというのは、当然あります。それが預かりをやることによって、教育機関として、きちんと出来るのかということは残るのではないかという気はします。

(副委員長)

例えば、一般の市民の方からみれば、保育園と幼稚園と何が違うのかといえど幼稚園は早く帰らなければならない、迎えに行かなければならない。保育園はお父さん、お母さんの仕事の都合であるので、ある程度、夕方遅くまで見ていただける。預かり保育をするというと保育園と幼稚園の差異というのが、全然分からなくなる。幼児教育というのは、保育園も幼児教育をちゃんとやっている。幼稚園が預かり保育をすると、保育が入ってくる。保育園はすでに幼稚園と保育園が入っている。幼稚園も保育の部分が入っている。時間といえば、文科省とか上の方の市民の利用する保護者の関係ではない所で、何だかんだやっている。この委員会は市民の人達、保護者の人達、おじいちゃん、おばあちゃん、近所の人もある形で、何がどう変わるのかということ、明文化するのが、我々の役割なのかと思う。そこに関わってくるのは、先生方の能力で、幼稚園の先生、保育園の先生何が違うのか、そのところの明確な説明が出来ること、全員小学校へ行くので、小学校との連携は、どうすればいいのか、

そういうものをこの委員会で、きちんとまとめていただけたらありがたいと思います。

(委員長)

いずれにしろ、就学前の施設をどうするのか、最終的には幼稚園の先生、保育所の保育士さん、そのような方々が具体的にどういう形で広い意味での保育をしていくのか、小学校、中学校と桑名っ子を育てていくのか、公私を問わず、そのための場としてどうあるべきか、私は最終的にそのような話になっていくのだと思います。その中で預かりというものを、公立の幼稚園が導入するという時、幼稚園の中で考える預かりというものの、原則のようなものを掲げておくべきなのではないか。無制限、無定量にやっていくという話では決してないというふうに思っています。結果として必要ということであれば、それでも構わないと思いますが、原則として維持する、原則としてはある程度の限度を設けておく必要があるというふうに思っています。一様原則としては。

(副委員長)

このようなことも耳に入ってきたのですが、公立の幼稚園は子ども達早く帰ります。その間何をしているのか。先生方は。私立の場合は、子どもを結構遅くまで預かっています。私から見れば、両方の先生方とお付き合いがあるので、どっちの先生達も職場だけではなく、持ち帰っての仕事は、夜なべ仕事ですよというのですが、第三者の一般の市民の人から見れば、子どもが帰った後なので、幼稚園の先生は次の日の準備をするなり、掃除するなり、楽ではないのかそのような意識の方もみえる。その辺りの誤解をきちんとクリア出来るような形で、今回は出さないと、何か行き違いのまま、形だけ整えても、根っこが残るのなら、このメンバーで長い期間かけて検討しているので、誤解のないような形で頑張っていたいただきたいと思います。

(委員長)

いかがでしょう。

(委員)

預かり保育のことは、必要ないという意味ではなく、保育所の長時間保育と、幼稚園の預かり保育というものは違うもので、幼稚園の預かり保育というものが、どのような目的で、どのようにとらえたらよいのか、自分としてわからなかった部分があるので、この後決まっていく中でも、私自身もそこ

はしっかりと、知っておきたいという思いはあります。

(委員長)

基本的にはここでは保護者の子育て支援というのがひとつの目的になっている。

(副委員長)

保護者の子育て支援と漠然と何もかも含んだような言葉になってくると保育園に来てくださっている保護者の方達の分も保育園は子育て支援しています。幼稚園は幼稚園と保護者の家庭の事情が違うということで、それぞれの立場で子育て支援はしています。漠然とした言葉だったら、みんなしています。小学校の先生も子育て支援しています。幼稚園の出来る子育て支援と保育園の出来る子育て支援と小学校で出来る子育て支援とは違います。学童とか小学校行ったらあります。みんなそれぞれ子育て支援、今の世の中みんなやっています。近所のおじさん、おばさんも。そのような意味で幼稚園は。保育園は。小学校は。そのようなことをここでは教育委員会と福祉部の人達がみんな一緒に考えている会議ですので明文化する必要はある。私立は私立の個性があるのでここが出せば、それに対応して出してくれると思います。そのような形で一般の市民の人達から見て、これから保護者になる若い人達から見て、選択肢がきちんと選べる様な状況で提供する情報、それがこの委員会の最終目標なのかと私は考えています。

(委員長)

今のご提案というのは非常にありうると思い聞いていました。確かに桑名で子育てしやすい環境を作っていくという時の支援体制をくむ中でいろいろな選択肢で子育て支援がありうるといこと、就学前施設の再編していくという観点での預かり保育、預かり保育を中心とした子育て支援の在り方を検討するということを位置づけておく必要があると思っています。

(副委員長)

預かり保育となると、何でも幼稚園とか保育園が抱え込むのではなく、そこに地域の人達がどのような形でかかわっていただけるのか、桑名の方は地域の方が熱心です。地域色というのか地域カラーというのか、そのような人達も含めたものを一緒に考えていただけたらありがたいと思います。

(委員長)

当然幅広の、園、学校に限らずファミリーサポートとか、そのような話が入ってくるのだと思います。何かありますか。事務局は大丈夫ですか。他に何かありますか。

(委員)

先ほど副委員長が言われたように桑名は公立の幼稚園も保育所もあり私立の保育園も幼稚園もあり、バラエティに富んだ選択肢が沢山ある市だと思います。それぞれが、それぞれの園運営がなされていて保護者のニーズにぴったり合っている。保護者が自分のライフスタイルに合わせて、選択しているという状況があるならこの委員会は必要ない。今そのバランスが崩れているというか難しい状況にあるから、この委員会が行われている。基本的な考え方に戻るのですが、概ね半数程度を目途とするという部分について、再編ということなので数が減るのは理解できる。私自身は半数よりもっと多い方が良いと思っていますのですが、先ほど事務局の説明の中で、適正規模を確保するためという理由が挙げられていました。確かにそれは必要だと思いますが、それだけでは具体的なイメージが掴めない。もうそろそろどこの園を残して、どの園が無くなるのかといった事を示してほしい。以前いただいた資料の中に桑名市内の公私立の保育園、保育所、幼稚園の分布図がありました。あれを基にして、作っていかれると思うのですが、公立の保育所に関して言えば、数もそれほど多くはないし、やっぱり偏りが見られる。大山田地区には公立の保育所はないし、城東周辺には結構な数がある。桑名市内のどこに住んでも均一なサービスが受けられることが公立の役割になるべきだと思います。私は個人的にはすべて再編するなら幼保一元化施設にしたらどうかと思います。公立のことを考えていけば、そのような事を考えてバランス良く配置していったら何処に住んでいても、同じような今よりは公立の幼稚園へ通わせている保護者の負担は増えると思いますが、同じようなサービスが受けられるような分布というのはどのようにお考えなのか、そろそろ具体的なイメージがほしいと思います。

(委員長)

いかがでしょう。ご提案がありましたが、そろそろ具体的に中学校ブロックというひとつの原則に物事を考えていこうというのがありました。その単位ぐらいで具体的に何処を残して何処をやめるのか、具体的な案を検討していくステップに入っていくということによろしいでしょうか。確認しますが、このものさしすべての項目について、今の段階で詰めるということとはしません。分団登園の話もありますし、定員、定数の問題もありま

す。ただ原則分団登園を廃止するというような、下のほうの預かり保育の話も含めて、まだこれから議論して進めていかなければならない所はあります。上のはじめの4つのものさし、中学校ブロックを基本単位にする、集団を確保していく、4歳児実施園を中心に検討、独立園化、ブロックによっては幼保一元化施設の検討、この原則に従って中学校ブロック単位で、具体的な案を事務局からご提案いただこうかと思いますが、これについてはよろしいでしょうか。

(教育部長)

1点だけ確認ですが、ものさしとしてこのような形で考えていこうと出していると思いますが、事務局からの言葉にありましたが、原則既存の園舎を活用していくという文言は、ここにはありませんが、付け加えるということではよろしいでしょうか。

(委員長)

これはどうしますか。そのように考えているという話がありました。原則既存の園舎という言葉は付け加えておくことでよろしいでしょうか。それをベースで考えていいですか。

(教育部長)

今のお話であります、幼保一元化施設になるとまったくそのようなことも確認したうえでということではよろしいでしょうか。

(委員長)

そうですね。では原則既存園舎をということを考えながら、次回具体的な案を示していただいて、そして各ブロックごとに検証していく進め方でいきたいと思えます。これはかなり踏み込んだ議論になっていくと思えます。

(委員)

原則分団登園の廃止のところ、バスは走らせないと書いていただいておりますが、今走らせている幼稚園ありますが、そちらの方は中学校ブロックに入っていた場合それは基本的にはバス通園は、なしということになりますか。

(委員長)

まずないということを前提に考えなければならない。そのように思えます。そのようなことも含めて、かなり議論を呼ぶことになるだろうと思えます。

踏み込んだ議論になると思いますが、次の委員会も公開ということによろしいでしょうか。公開の元で議論させていただくということによろしいでしょうか。

次回、具体的なブロックごとに公立幼稚園の再編の案について、公開で議論していくということにしたいと思います。以上が協議事項の1の部分であります。引き続き協議事項の2アンケートや保護者の意見収集についてということ。

(教育部長)

これをものさしにしてやるとなると、考えておいた方が良くと思う所がありますので、幼保一元化施設については、3園程度ということ。委員からもありましたが、バスは走らせないということについても、原則ではなく走らせないと言いきってありますので、まずないということですね。その形で進んでいっていいのか、事務局どうでしょうか。

(再編推進室長)

事務局としては、原則保護者送迎ということですが、地域によって、合併前の地域におきましては、バス通園でしています。それは今までの地域性、合併等の関係でそのような園が出来ていますので、そこだけは残すという考え方でさせていただきたいと考えています。

(委員長)

合併のところで、それはありうるということですか。

(再編推進室長)

そうです。

(委員)

今の意見ですが、私桑名市の総合計画の中に地域性の特性を活かすとそのような文言があります。ここではバスを走らせないと書いてありますが、地域性の特性、中学校ブロックを基本とすることも総合計画の中にありますが、これに関しましても、両方が合致している部分もあります。私自身は地域性の特性というのは尊重して、ここの理念にあります中学校ブロックで1つしかだめですとかたくなな考え方ではなく、ここには2園あってもしかるべきとか、本来の地域の子どもを育てる、根っこの部分を育むという精神がありますので、このようなどころからも考慮した方が良くと思います。

(委員長)

合併したところという地域特性もあります。その中でブロック別で次回から具体的に考えていこうといことでもあります。ブロック別で突っ込んだ議論をせざるを得ない。それを次回やっていくということによろしいでしょうか。

(委員)

現在バス通園している所は残すということでしたが、そうすると「原則保護者送迎」も無くなるということですね。

(委員長)

合併のところはそれを考えるという話でいいですか。

(委員長)

今のところ。今バスを走らせている所は、多度幼稚園だけですか。

(再編推進室長)

大山田西です。

(委員長)

基本的にそれでいえば、多度は残す可能性があるということですか。

(委員)

バス通園する子は保護者送迎ではないですよ。子どもだけです。バスで送ってもらうということは。

(委員長)

そうですね。

(委員)

今までどおり考えられたらいいのではないですか。

(副委員長)

バスで今まで送迎していたところはそのままです。

(委員長)

保護者が送迎しても良い。

(副委員長)

地域性があるので。

(委員)

確認をしたいのですが、基本的な考え方の一番上の8項目について今、意見交流をしていると思っていたのですが。委員長さんが先ほど次の議題へ移るとおっしゃっていたので、原則分団登園の廃止であるとか、定員とかについてこれから議論するという理解でよろしいでしょうか。

(委員長)

これから議論はありますということです。

(委員)

先ほどお話をさせてもらったイメージが掴めないで、あれが出たうえでの議論再開でよろしいですか。

(委員長)

そのようなことになると思います。上の特に白抜きの5つのものさし、中学校ブロックからブロックによっては幼保一元化。その結果24が半分になるのか、3園幼保一元化施設を作るとか、このような話というのはブロック別に検討していかないと何ともいえないということです。ただ現状よりは少なくしていかなければいけないでしょうし、そのようなことをイメージしているだけです。

(副委員長)

白抜き終わって、次にかすみのかかったところが出てくる訳です。

(教育部長)

幼保一元化施設の3園程度というところですが、一般的に読むと2~4と考えるのかと思うのですが、ここについては私立さんもこだわってみえるだろうと思います。私立の幼稚園協会さんあたりはこれに対し、非常に反対されている。3園程度を予定するというのですが、3園までとするのか、ずっとみていながらということですね。

(委員長)

ですよ。そのようにしか言いようがないと思います。

(教育部長)

仮に数についても、3とありますが、あくまで目安だということですね。

(委員長)

そうですね。一度中学校ブロックでやってみないと。

(委員)

考え方ですが、地理的条件と地域性、このようなものは十分考慮して案を作っていたらいいと思います。

(委員長)

そのとおりです。よろしいですか。もう一度確認ですが、次回の委員会で具体的な中学校ブロック程度で、具体的な案を提示して、各ブロックごとの検証の作業に入っていきたいと思います。今ありましたように、突っ込んだ議論というのは、図面を出してもらいますので、かなり踏み込んだ議論になりますが、次回の委員会も公開でいきますということを、確認させていただきたいと思います。

協議事項の1番については以上ということにさせていただきます、次に協議事項の2に入っていきたいと思います。

アンケートなどの保護者の意見集約についてです。この委員会の中で、委員会として保護者の声は聞いておく必要があるだろうというふうには思います。どのような形で意見集約を図るのかということについては、検討委員会として、最終的な確認はございません。意見集約の具体的な方法として、この検討委員会からのアンケートをやるということもひとつの方法としてあるのだろうと思っております。いかがでしょうか。今回成立しております正式な委員会ではありますが、この委員会の場でアンケートをやりますかということをお諮りしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(委員)

アンケートについては賛成です。設問ですがより誰でもわかりやすく、どのように書いたらいいのか、わかりづらい設問というのは考慮していただきたいと思います。

(委員長)

そうですね。わかりやすい設問というのは絶対必要だと思います。それから対象ですが、これは基本的に今回再編と言うことで、対象になることを考

えると、公立幼稚園の保護者の方を対象にするというのもひとつの考え方か  
と思います。これについてはどうでしょうか。何かご意見ありますでしょ  
うか。

(副委員長)

アンケートの内容、質問項目にかなり影響すると思いますが、公立の幼稚  
園の再編整備です。この委員会は。公立の幼稚園の保護者、ちょっとひかか  
るのはこれから子どもを幼稚園に入れる時に、公立に入れるのか私立に入れ  
るのか、保護者の立場としては勤めたいというキャリアを持っている保護者  
が沢山いるので、保育園に入れようか、迷っている人が普通です。子どもを  
産むかどうかはまず自分の生き方、まず女性として。ここにいる方は仕事  
を持っている。その時子どもを産む時の選択からいろいろ悶々としてきた。自  
分に祖父母が側にいるのか、親戚がいるのか、全部関係しています。子育て  
というのは。何かできれば、桑名の限られた人達ではなく、お金はかかると  
思いますが、もう少し公立の幼稚園というものを考える、保育園を考える、  
そこには当然私立の存在もありますから、市民の人達、保護者になっている  
人、これから保護者になる人達も含めて、出来ればとてもシンプルなアンケ  
ートでも良いのですが、幅広い人達の大枠だけでもつかめたほうが、あまり  
細かいところをアンケートで出すよりかは、広く市民に納得してもらえら  
うな、アンケートというのもひとつではないかと思います。

(委員長)

子育て支援に関しては、また別途、次世代育成の方でアンケートはかつて  
やっています。そのデータをいただいた記憶があります。公立幼稚園の再編  
に絡んで、具体的なことというのはあまり聞いていなかったと思います。既  
存のアンケートの結果、若干古くなり、それを加味しながら、ターゲットと  
したら公立幼稚園の保護者の方を対象に聞いていくということになるのかと  
思います。

(副委員長)

公立の幼稚園の保護者の方達であれば、世間からみたら公立幼稚園ありき  
になってしまう。ここの委員会は中立なはずなので、公立幼稚園ありきの委員  
会ではないし、皆さんから意見を聞きながら、この地域の、広くなった桑名の  
全体の公立幼稚園、それは私立の幼稚園もあるし、子どもの子育て、就学前  
の教育となると保育園もあるしということになるので、ターゲットを絞ってし  
まうと特殊、特異な対象になるという印象を他の人が持ったら、この委員  
会がすご

く幅広い視野で検討してきました。幅広い視野で皆さんの意見を聞きながら、それで進んでいこうという皆さんの見解だった訳です。この苦しんできた部分をアンケートがここだけだったら、今までやってきたのが、少し残念だという気がします。

(委員長)

今のご発言というのは、凄くわかります。桑名っ子をみんなで育てるといふ所から始まっている訳だし。

(副委員長)

本日私立さんがいないのが残念ですが、いてもいなくても、私たちの考え方は一緒だと思います。いないからではなく、いても一緒だと思うのです。

(委員長)

子育て支援という大きな意味での、施設整備だということまではやっている訳で、そうなる具体的な再編のターゲットが公立幼稚園だからということで公立幼稚園の保護者の方に聞くというのは、極端に対象が絞られてしまっているのではないかご指摘はそのとおりだろうと思います。

(副委員長)

自治会でも公立幼稚園だからと特別な目で見るとはではありません。自治会は地域の子どもということで見てもらっています。桑名は桑名っ子のこれから未来に向かって、どう育てていくかというのは、乳幼児期から一緒になって考えましょうというのがこの委員会です。だから地域の人達も一緒になって、忙しい中来てもらっている訳です。アンケートをどなたにお願いするのか、お答えいただくのかというのは、大事なことだと思います。みんなで考えようというのが、基本的な考えだと思います。

(委員長)

そのとおりだと思います。今の対象者について、ご意見ございますか。

(委員)

就学前教育の充実ということで、遊びを通して生活力の基礎を育むということで私立、公立、小学校このようなところと連携をということで、総合計画の中に書かれている。そのようなことから考えますと、今副委員長が言われたようにより幅広く、膨大な数になるとは思いますが、より多くの市民の市の保護

者にアンケートを出すという感覚でとらえたらどうかと思います。

(副委員長)

子どもというのはお金がかかる。今少子化というのが不安材料になっています。桑名だったら安心して子どもを育てられる。保育園、幼稚園、地域の方達小学校入るまで、小学校入ってからも安心して育てられるというイメージをもっと明確にアピールしたい。ここは名古屋に近いだけに、皆さん達、お母さん達もいろいろな情報が入ってくるし、私立も頑張ってくれているから、選択肢が沢山あります。選択肢が多い中で何処を選ぶのか、それは保護者にとって魅力だと思います。このように選択肢の多い地域に住んでいるからこそ、そこに生まれた子どもが育つというのは、恵まれた教育環境だと。その恵まれた教育環境という桑名をアピールすることで、子どもの人口も増やすことも出来るだろうと、私は期待があります。少子化、少子化というけれども桑名は少子化ではないというのを、最終目標にしたいと思います。就学前のこのような仕事をする時には、そこを自分の中で常に意識している。桑名は少子化は無縁というところでいけたら良いかと思います。桑名のすぐ近くではそのような所がありますように桑名もそこに負けない様に頑張っていたらと思います。

(委員長)

幅広くアンケートを考えるという形ですか。とりあえず対象というところがあります。対象者についてですが。今、委員、副委員長からは幅広く考えたらいいのではないかという意見をいただいて。その点についてはどうでしょうか。ただ幅広くやっていくとなると、経費の問題もあります。名簿をどのように作るのか、経費、設問もかかってくるが、いつやるのか、保護者の意向、意見というのが再編の計画にうまく反映できるのか。段取りの問題が出てきます。何かありますか。

(委員)

前回のこの会議でそのような意見もありましたが、今回は公立の保護者でやったらどうかということで話が進んでいたかと思います。

(委員長)

正式には決まっていなかったと思いますので、もう一度保護者アンケートやりましょうというところから議論をしているのです。

(委員)

なかなか項目とか対象とか考えるとなかなか難しいと思います。広くやれば。

(委員長)

そこは私も思います。

(副委員長)

ここは言い方悪いですが、就学前施設の再編検討委員会であって、公立の幼稚園最初にありきで、委員会は横に置いておいてではないと思います。私達としては桑名市民の人達の子どもさん達を、これからどうしていくのか、これから生まれてくる子ども達をどのように小学校に渡して小学校と幼稚園、保育園が子どもを一本化して育てていただけるのか、教育していただけるのか。基本的なベースがある。そこに公立から小学校に行くのか、私立から小学校へ行くのか、小学校が対応しています。ここは公立も私立も含めた就学前の子ども達の教育を考える場だと思います。保護者は公立だけではなく、私立も含まれてくる。桑名は一本だと思っています。だから出席していないというのが残念です。

(委員長)

対象者というのは、私学の保護者も含めるのかどうか。当然含めたほうが良いだろう。次世代の計画に関わってくることですが、これから保育所や幼稚園を使う事になるであろう方にも範囲は広げるべきであると。ただそこまで広げると、設問の仕方が。

(副委員長)

設問の仕方は、我々が求めているキーワード、その設問で良いかと思えます。選択肢を入れていけばそんなに複雑なところまで聞かなくても、一言で会話で答えが出てくるような、考える時間のいるようなものではなく、詳しい所までのではなく、桑名市民の大枠というところ、この委員会の中で、大きな枠を決めてその中で一般的な傾向をぐっと掴んでおけば、それを応用してまたそれぞれの委員会が深めていけばいいだけである。それがあれば私立も公立も共有できる。私立も公立も共有できる部分であって、そこで公立なり私立なりの個性を出していけばよい。

(教育部長)

副委員長の意見はよくわかる。私立、公立、保育所、幼稚園、保育園、たまたまそのような選択肢にはなっていますが、桑名っ子のこれからをどうす

るのか。副委員長さんのおっしゃる通りだと思い聞いていました。これからの対象者0歳から3歳の方々に聞くということでもありますか。

(副委員長)

例えば結婚してて、まだ子どもをまだ産んでいない人達たちというのは凄く気になっている。気になってはいるがその人達までやると無限になってきます。赤ちゃんのいる人、働いていて今、育児休暇をもらっているけれども、どうしようかと思っている人もいるかもしれません。本当はそういう人達の気持というのは、我々は知りたい。

(教育部長)

よくわかりますが、そうなると方法とか経費の問題が頭をよぎります。例えば対象者が6000人、その中のある程度の抽出をしてダイレクトでアンケートのご協力の送付をして、その中の回収をし、何パーセントになるかわかりませんがという方法になるわけですね。

(副委員長)

まだ真剣には考えていませんが、言い方は悪いですが、往復はがきにぱっと見て答えてもらえる様なそのようなものでも良いと思います。折って封筒に入れてポストに持っていかなければならないのではなく、来たらそれに私だったら、そのかわり書いていただいた方の対象者の人はどういう人か、その人達の基本的な考えが、子育てしているとかいろいろな人達の基本的な考えがわかれば、そこから詳しいことを聞くということは無限大になってきます。一番のベースの部分だけはきちんとアンケートでお答えいただければそれでいいのではないかと思います。今までアンケートというのはいろいろ答えてみえる。本当にシンプルなはがきで往復はがきの半分を切り出すというのはすぐ出来る。それは大きな魅力だと思います。

(教育部長)

そうなると、設問も数点ぐらい、はがきに入るぐらいのものをということでもありますね。このアンケートの時に、検討委員会をやる中で、委員さんの方から公立の保護者の方に聞きたいことがあると。もし仮にある程度の補助金が出た場合公立に通わず、私立に通うのではないかと。そのような部分も聞いてほしいというお話がありました。もしアンケートをやるなら、一緒に聞いてもらえればと、仮にいろいろな方に聞いて公立の方にはその設問だけをプラスして出来るのかと思っていました。今のお話だと往復はがきの大

きさだとそれは少し難しいと思います。出来るだけ幅広く聞きたいという考えには私も賛同させていただきたい。方法については少し。

(委員長)

方法もそうですし、基本的に何らかの形で意見をお伺いしたら、それをこの再編の中で、反映させていかなければならない。そのために、実は残された時間というのはあまりないと思います。答申をまとめていかなければならない。具体的な計画を市に作ってもらわなければならないということまでを見通すと今桑名の子育ての支援の話について公私を問わず、あるいは子どもさんを産んだばかりの方までターゲットで聞くというのは、確かにいいとは思いますが、特に議論になっていて、委員からもあった私立と公立の保護者の経済的な格差の問題というのが、実はあるのではないかとということが再三提示されていました。そのようなことが本当にそうなのかどうかということを含めて、定量的に量で把握するというのも今回にアンケートの目的のひとつだろうと思います。そのような事を考えていくと、副委員長がおっしゃるようなことを充分わかりますが、少しターゲットは絞らざるを得ないのかと思います。

(副委員長)

私も私立の経営の事はよくわかっていませんが、保育園だったら公立も私立も保護者の収入で保育料が決まる。幼稚園の場合は、親の収入は関係なく、私立と公立の保育料の差が大きいです。私立にも行政からの支援がいつているはずだろうと思います。保護者からしてみれば、公立の1クラスの人数があれだけしかいないのに、公立の幼稚園の先生の給与はあれだけ高く、私立の幼稚園の先生は、給料が低い。クラスの人数は多い。だから公立の方がしっかり見てもらえるのではないかという見方もあります。それもおかしいと思ったりしますが、日本という国の中では公立の幼稚園に行っている子ども一人当たりはどれくらいかかって、私立の幼稚園に行っている子どもは、どのくらい市からいつているのか、そのような事をもし聞かれた時に、数字はこちらでは用意されていると思います。そのような事が表になれば、すごくややこしい話になります。アンケートというのは、問題を設定する時に、難しい気がする。

(委員長)

このアンケート対象を何処にするのかということも含めて、難しいと思います。今回のアンケートをする目的のひとつが今後ここで具体的に検討していく皆さんご承認いただいた、いくつかのものさしについての保護者の意向

を聞くということもひとつあると思います。前回懇談会ベースの話で言っていたのは、結局そのような形でやると、今の公立幼稚園の保護者の方に具体的に公私の格差の話も含めて聞いてみて、その結果どういうところにこの委員会として説明しなければいけない課題があるのか。集団の確保というのは当然賛成。けれども今私が通わしている幼稚園は廃止してほしくないという議論になるに決まっている。定量的に見れば。だからこそ、納得してもらうためにはもっとこのようなところを検討しなければいけないという課題出しだと思っている。桑名の子どもを皆で育てましょうという理念をもっときちんと強化して、子育て支援の話というの、もっと公私幼保選択出来るということをアピールしていかなければならないという結論になるのか。来年の2月までに答申を出さなければならないというところで言いますとターゲットを絞らざるを得ないと思います。

#### (委員)

保護者の声を聞くということはとても大事な事である。やるなら公立に限らず全保護者にやるべきだとは思いますが、同じ設問ですべていけるのかどうかについては、無理があると思います。私立の幼稚園向け、保育園向け、公立の保育所向け、幼稚園向けに、筋は同じであっても、文言を変えてわかりやすく作らなければいけない。でなければ有効な、あまりざくつとした質問では、あがってきた答えあまり傾向がみられない。ある部分では突っ込んだ質問をしなければいけないと思うと同じ設問では難しい。そうすると、今から4種類のアンケートを作成するのかという非常に難しいと思います。個人的には、前回の懇談会の中で公立の幼稚園の保護者ということがあがっていましたが、個人的には公立幼稚園と公立保育所の保護者の方を対象にアンケートをしたらどうかという思いはあります。もうひとつこれから政府がやりたいことがあるという場合にパブリックコメントを求めます。そのような形で市の広報に就学前施設の再編について意見を求めたいというような案内を書く。もう1点、この会の会議録を見ている人というのは結構多いと思います。幼稚園の先生に話を聞くと、「よくみています、これ〇〇委員さんの言ったことではないですか」と言われます。保護者の人にもこのような会議をしているので、のぞいてみてくださいと話していると聞きます。会議録のところにも入口をつくり、いちいちがきを出して郵送してもらうのではなく、そこをのぞいてもらった市民、男女を問わず、年代も問わず、アンケートと同じような項目を作っておいて、基本的な設問から、広く意見を求めるようにすると、自動的に集計してくれるので、保護者に対するアンケートとは別で集約をしなければならないと思いますが、広く一般からの意見はこのような意見がありますと、当該の幼稚園、保

育所の保護者からはこのような意見があがっているという形で、公立の保護者の方以外の意見も受け付けるという形は出来ると思います。

(委員)

これからの人とか今行っているというのはなかなか比較とかできなくてわからないと思います。

(副委員長)

比較できないとは。

(委員)

例えば今私立に行っているけど、公立幼稚園に行っていたらどうか、とかはわからない。私今思いつきましたが、小学校1年生の所にアンケートをとれば、私立に行っていた子、保育所行っていた子、公立幼稚園に行っていた子もみんな居ます。経費がかからない。学校を通じてということで。過去のことなので、どうだったかという思いがアンケートでとれると思います。小学校1年生の保護者にとるというのもひとつかと思えます。

(委員)

副委員長がいろいろな事を言われて、アンケートというものをいろいろ想像してみました。はがきぐらいはちょっと無理と思ったのは、やはりアンケートをとる趣旨、このような話合いをし、その中で考えを聞きたいという説明もいると思います。結構簡単な質問でもいろいろわからないと言われる方が多い。園だよりなどでもそうですが、懇切丁寧に、具体的に例えばこうですと例をあげたり、注意書きなどをしないと、なかなかわかっていただけないということが多いということが私は保護者の方と話したり、園にいて思います。アンケートというのは長くなるものだと思うことがひとつと、委員が言われたように引っ越して来た人が、例えば津からみえた時、津の私立と桑名の私立も違う。公立も鈴鹿からみえた人が同じ公立でも鈴鹿と似ている部分もありますが、ある部分でちがうのですねと言われ、行ってみないとわからない。入ってみないとわからないというところがあり、そのような部分でも、今からとかこれからということに対する意見を言うというのは、難しいのではないかと思います。今言われた様に小学校1年生の子ならあらゆる所から来ている部分で、答えていただきやすい。もし、次の子を入れるならとかそのような事も設問にあったりすると、冷静にまたそれを考えることにもなってくると思います。

(委員長)

具体的に小学校1年生の保護者という話も出てきましたが、事務局としてはどうですか。その余地というのはありうるのか。再編の計画を作る時に大前提としては、保護者の意見を聞かなければならないという話です。その中で子育てそのものについての話もしなければならぬ。現在のことというのは非常に答えにくいのではないかという意見もあったり、過去のことについて小学校1年生の保護者に聞くというのもひとつの案だと思うのですが、それを始めるとなると、計画に意見を。アンケートをやるとなるとひとつのねらいはこういう議論を今やっているというアピールだと思います。アピールからすると小学校1年生の保護者にアピールしてもしょうがないということにもなってしまう。その辺りの特質というものを今ここで即座に判断できかねる部分があります。事務局としてはどうですか。基本的には公立幼稚園の保護者を対象として今日議論したものをベースにそのものさしについての意見を聞くというスタンスでしたよね。

(再編推進室長)

そうです。今現在の公立幼稚園の保護者の方に公立幼稚園の再編のところのあたりをお聞かせ願って、事務局の案として反映できたらというような考え方を持っています。

(委員長)

公立幼稚園の保護者の方に対して、例えば分団登校どうするというようなことを含めて、ダイレクトに聞いてしまおうと。

(委員)

小学校の子が持ち帰れば、その家の、その地域の皆さんにもこのようなことをやってるんだとわかっていただけないかと思います。ブロックでなくなるということは、地域の皆さんにもわかっていただかなければならないことだと思います。急にこれがなくなったら、本当に地域としては、寂しくなる訳ですから、やはり小学校の方に持ち帰っていただければ、家族でこのようなことをやっていることがわかるのではないかと思います。

(委員長)

地域で議論をしていただくということでも意義あるのではないかということでしょうか。そのような意見もいただき、想定していたのは、公立の幼稚園の保護者の方にたとえばクラスの人数はどれぐらいが良いのか、再編の基

準について、意見を聞くということを想定していたので、その意味でいえば範囲や趣旨が違ってくるといことになります。

(副委員長)

言い方が悪いですが、人数どれくらいが良いとか、地域にどのようなということになると、理想的なことになってきます。現実というものをきちんと把握した中でのこれからのあり方だと思っていますので、就学前教育としての。子どもは絶対に小学校に入るので、就学前教育のひとつとして、保育園と幼稚園があつて、それも公立と私立がある。そのような考え方しか私には出来ません。最初に公立幼稚園ありきではなく、子どもにとって公立幼稚園が良いのか、私立の幼稚園が良いのか、保育園なのかというのは保護者の関係です。保護者の方が、仕事をずっと続けたいから保育園にお願いすると、一番便利な保育園にお願いするしかない。保護者というのは子どもに対するいろいろな思いがあつて、ひとりひとり複雑です。その複雑なものを行政として、桑名は桑名の子どもをどう育てていくのか、大きな枠で考えて行く時に私達は保育園だから、幼稚園だから、私立だから、公立だからではなく、桑名の子どもという桑名っ子と考えていきたい。希望としてアンケートは公立の幼稚園だけの方が人数が少なくてすみませんが、なるべく対象を広げたほうが、これからの桑名のためにも、教育を考えてみえる先生方も、保護者も良いのではないかという気がします。

(委員長)

どうでしょうか。アンケートのやり方、対象とか、経費の問題とか、公立の幼稚園の保護者の方だけなら何とか出来るかと事務局と相談をしました。小学校1年生の親もターゲットに含めてどうするという事でいえば、アンケートの実施、それ自体の文案を今ここで検討する話ではない。

(委員)

公立は5歳1年保育のところは沢山ありますので、それまでには保育所に行っていたり、保育園に行っていたり、私立の幼稚園に行っていたり、初めて集団の中に入れられる方とか、いろいろみえますので、公立幼稚園だけのアンケートをとっていただいたとしても、結構、公立にも反省せざるを得ないようなこととか、はっきりとした意見はいただけるのではないかと思います。

(委員長)

いかがでしょうか。やり方をめぐってのご提案。

(委員)

今アンケートについて対象者をどうか、問題点も沢山出てきます。そのようなことで堂々巡りになってしまうので、私自身は、事務局に一任して、ひとつのたたき台を出してもらい、これでどうでしょうかという、1回目なのでアンケートを作るとしては。それで皆さんが了承されれば、それで良いのではないかと思います。

(委員長)

それについてはやぶさかではなくて、公立の幼稚園の保護者を対象にして、ものさしを中心に意見を聞いてみようという案というのは、ここでもアンケートをしなければならぬということで事務局にも用意はしてもらっています。その検討というのを、まず内容を見てみまじょうか。いいですか。アンケート（案）を見せて下さい。

(副委員長)

小学校に行っている子どもさんで公立幼稚園から来ている子というのは何パーセントぐらいなのか。

(教育部長)

だいたい45%ぐらいです。

(副委員長)

保育所は。公立私立合わせて。

(教育部長)

以前にいただいている資料を見ていただくと。

＝アンケート（案）配布＝

＝5分間休憩＝

(委員長)

よろしいでしょうか。事務局から説明願いますでしょうか。このアンケート、保護者の意向を聞かなければならぬということは、ずっとでていまし

た。この再編検討委員会が知られていないとすれば、それをどうやって知らせるのかという話がありますし、具体的に今お子さんを通わせている保護者の方が、公立の幼稚園に対して、どういうふうに、どんな理由で選択したのか、再編そのものについて、聞いてみようという原案であります。副委員長から提案のあったように子育てそのものについてであるとか、私立の保護者の方にもというような、そのような所には実は考慮していなかった。ずっと話ってきてその通りであるが、つらいのが24年の2月には答申をまとめなければならない。それにどのように役立てるアンケートが残された時間の中で出来るかということも大きな制約協議になるのかと思います。事務局から簡単に説明願いますか。

(再編推進室指導主事)

=アンケート(案)について説明=

(委員長)

ここで今まで議論していた話でいうと、かなりターゲットは絞っている。公立幼稚園の再編についてということが中心になっています。かなり大きな制約事項があります。2月までに意見が反映できるものであること、公立幼稚園がリスト上にあがっていることからいえばその保護者を対象にあげざるを得ない。そのようなことからアンケートはどうかということでも用意していただきました。何か意見ありますか。

(副委員長)

今私立さんがいないので残念なことです、自画自賛的な項目が並んでいるのかと思います。選択肢ではなく。そのような印象を受けます。公立幼稚園ありきの印象が強い。

(委員)

アンケートについて意見を言わせていただくと問7の3頁になりますが、公立幼稚園にどのような事を望まれますか。これは複数回答可ですか。項目の3学区制の廃止ということについては分かりにくい。通園区域のとか少し説明があった方がわかりやすい。5頁の預かり保育についてですが、仮に平日2時から4時までの2時間程度をここに明記するのはいかがなものかと。預かり保育があったら利用しますか。利用するという人に何時ぐらいの預かりを希望しますかということ、保護者の口から言わせたい、聞きたい。2時から4時これで決定ではなく、保護者のニーズに合わせて時間の設定をす

るべきであり、2時間程度ということではないのか。登園方法についての設問がない。これは大きな議論がありうるし、保護者の意見も当然必要だと思います。

(委員長)

2頁の問3のところ、どのような理由で選んだのかというところに分団登園の話はあります。

(委員)

実際再編をするにあたって、分団登園は廃止する訳です。廃止することを保護者はどう考えるのか、ものすごく大事な要素だと思います。自分の子どもを通わず保護者にとって、大事な部分であり、その部分の設問を入れるべきだと思います。

(委員長)

いかがでしょうか。

(副委員長)

小学生と一緒に分団登園というのは凄くうらやましい。小学校のお兄ちゃん、お姉ちゃんの活動を見ながら幼稚園の子ども達が保育を受けるというのは一番理想的なものだと思います。その意味でいうと公立はベストだと思います。それが公立幼稚園に来てもらうひとつですけれども、大きな魅力なんです、それは私立には絶対ありえないことである。これを見た時に凄く辛かった。これがひとつの売りである。公立幼稚園の。保育園はありません。公立でも私立でも。現実子どもの数はということになります。何か書いてほしいがこれ売りですが、ではなぜかということになった時に辛いです。

(委員)

一番最初の桑名市就学前再編検討委員会についてのところに、数を減らしていく方向で検討を行っていますと明記されています。感の良い保護者は、自分の所の今通わしている園が無くなるかもしれないということを容易に想像します。そのようになった場合今うちの子が通っている園が無くなって、隣が残った。その隣が残ったという場合、今の分団登園はどうなるのか。そのことについて何か書かしてほしいという思いがあって当然だと思います。ですからその部分についての設問が無いのはいかがなものかと。

(委員長)

公立幼稚園の保護者に対するアンケートの案ですが、いかがですか。実施の対象、時期の問題、具体的にこの文案を見ていただき、いろいろ議論をいただいています。小学校の1年生の保護者にするというのはとても魅力的なことではあるのですが、幼稚園も保育所も聞けるし、凄く魅力的ではあるのですが、アンケートの項目を見ていただいておりますのとおり、私達がここで議論をする中でものさしについて、保護者はどのように考えているのかを中心に公立幼稚園の具体的な当事者ではありません。当事者ではあるが、再編される頃には子どもは通わせていない保護者という微妙な時期ではあります。そのような方々に意見を聞いてみることにより、説明不足な所はちゃんと説明しなければならないということも出てくる。そのようなために使われる調査になりますが、今日いただいた議論で、いけそうなものについては、既存の次世代の育成であるとか、そういう所でのアンケート調査である程度クリア出来るデータというのも今までいただいています。子育て支援全般に関わって、公私を問わず、保護者に聞くべきだ、その通りなのですが、その事について、どのような方法があるのか、ネットでとれる様にすべきではないかという意見もいただきました。そのような手法の話もいろいろありますので、一度そのようなところも今日の議論整理していきたい。

(教育部長)

ふたつ心配があります。ひとつは今日の段階でもう一度考えていこうと、提案するなら今度10月以降になります。そうしますとアンケートをとっていただくにしても、2月には間に合わない。議論の中でありましたように、公立に偏ったアンケートだけで良いのか、という話が出ていました。私立の状況とか、意向とか反映されないのではないかということは非常に危惧することである。アイデアとして出てきたのが、小学校1年生にとったらどうかという話がありましたので、その面は私いつも経費が頭に浮かびます。小学校さんにとるなら経費はそれほど要らないだろう。公立の幼稚園にとることについてもあまり経費は要らないだろうと思います。この項目の中で、1番とか4番5番、8番9番、12番辺りは一般的に聞ける項目もあります。それはある程度聞かせてもらえるなら小1の保護者に聞かせてもらい、他の公立幼稚園の方に聞きたいという部分もありますので、それについてはオープンで聞いていく。そのような手法で少しアレンジさせていただいたらどうか。指摘があった登園方法については、なかなかシビアな部分がある。仮に登園方法の中で、分団登園を続けなさいと出てきたら再編は出来ません。桑名市の良さとしては、いろいろな選択肢があります。それについては設問があり

ません。少し組み込ませて、わかりやすい設問にするとか、出来るだけ幅広くということも含めまして、委員長さんと事務局の方でそのような今のような意見を含み、一度作っていただく。それをそれぞれの委員さん達に示していただいたうえで、調査をしていただくと、期間的にも大丈夫ではないかと思えます。このような配慮をいただけないかと。委員からありましたような、パブリックコメントによって、幅広く市民の方に意見を聞くということも、併用してやっていけないのかと思えます。

(委員長)

今、ありましたが、別途小学校の1年生の保護者をターゲットとしたアンケートというのも設問として、共通性を作らせながら、考えてみたい。そのような中で、このアンケートについては、公立幼稚園の保護者に対して、まさにここでこれから議論するものさしの話、ものさしの有効性とか良く知られていることなのかどうかということも含めて聞いてみたいということでのアンケート調査を、実施したいということで、いかがでしょうか。アンケートの案については今日いただいた意見、また別途意見をいただきたいと思えます。それを事務局と私の方で、検討しながら、実施の方向で、実施に向けて案を精査していきたい。そのような形で進めさせていただいてよろしいでしょうか。

(副委員長)

私の周りでこの子は私立の幼稚園に行っていた、この子は公立の保育所に行っていた、次の子どももだいたい同じ所に行きます。公立の幼稚園に通えるというのは限られた条件です。私立の幼稚園、保育園というのは親の事情でどっちかにという形です。公立幼稚園というと、ここは公立幼稚園の再編検討委員会ですけれども、公立幼稚園ありきという考え方ではないと思えます。公立幼稚園ありきではないかと誤解されているような気がします。皆で就学前の桑名の就学前の子どもの教育を考えるというので幼稚園、保育園の公立、私立の関係者が話し合う場です。誤解をされているということは、このアンケートに関しても、何となく誤解をされているような印象があります。

(委員長)

その誤解は私も感じています。理念の確認が終わって、今当面検討しなければならないのが、公立の幼稚園。例えば預かり保育の聞き方も委員からこのように聞いた方が良いのではないかという話をご提案いただきました。また事務局と一緒に検討しますが、何時から何時までの預かり保育を希望しま

すかという聞き方を、長く安くやってもらったら良いに決まっています。そのような答えがざっと出てくるはずですが、それを根拠に公立の幼稚園も預かり保育を徹底的にやりますということになったら多分二度と復帰はないというふうに思います。そのための正当性を求めるためのアンケートだろうと思われるかもしれませんが、そこは注意しなければならないと思っています。その聞き方は大変難しいと思います。いろいろな事に配慮しなければならないアンケートにはなるだろうと思いますが、一度意見を聞きながらやっていくしかないのかと思います。まずはこのアンケートについて、少し検討を付け加えさせていただき実施の方向で検討したいと思っています。

(委員)

もうこのままですか。

(委員長)

違います。いろいろ言っていたかないと。

(委員)

問3のところですが、1から8番までありますが、ここをカッコ書きにしてもらい上位から順に1、2、3としてもらうと今後の参考になるかと思います。

(委員長)

順位づけですね。優先度の高いものから順番に選ぶというふうにする。

(保健福祉部長)

複数項目選択するものはすべてそのようにしたらどうですか。

(委員長)

その方がいいですね。ではまた後日お気づきの点ありましたらご意見をお寄せいただきますでしょうか。私と事務局の方に一任していただき、意見をいただき、その意見を反映させて、公立幼稚園の保護者の方を対象に、まずはやってみる。時期をみて、やり方の手法も検討しながら、共通化できる設問なんかで小学校1年生の保護者に子育てという形で聞ける部分があれば、それについては、やってみよう。

(教育部長)

そうなると、答申に反映されるのが、公立の方だけになるので、小1の子も一緒に、同時並行という形で。

(委員長)

同時並行という形で進めるなら、小学校に話をしなければならない。それがうまく話ができるのかどうか。それは事務的な詰めをやらなければなりません。そのような形でやらせていただきたい。今日用意した議題は2つですが、以上ということによろしいでしょうか。今後のスケジュール的な話も含めて。何かありますか。

(再編推進室長)

長時間有難うございました。次回第10回検討委員会は10月18日を予定させていただきます。午後3時を予定しています。場所はここ中会議室でお願いします。

(委員長)

いよいよ個別検討ですね。

(再編推進室長)

今回は先ほどありましたように、基本の考え方に対する個別の案を出させていただきます。

(委員長)

ブロック別の検討。

(委員)

アンケートに対する意見というのはいつぐらいに。

(再編推進室長)

1週間後ぐらいで。20日ぐらいまでをお願いします。

(委員長)

では以上ということによろしいでしょうか。これで終わらせていただきたいと思います。

17時20分 終了

以上会議の顛末を録し、ここに署名する。  
委員長